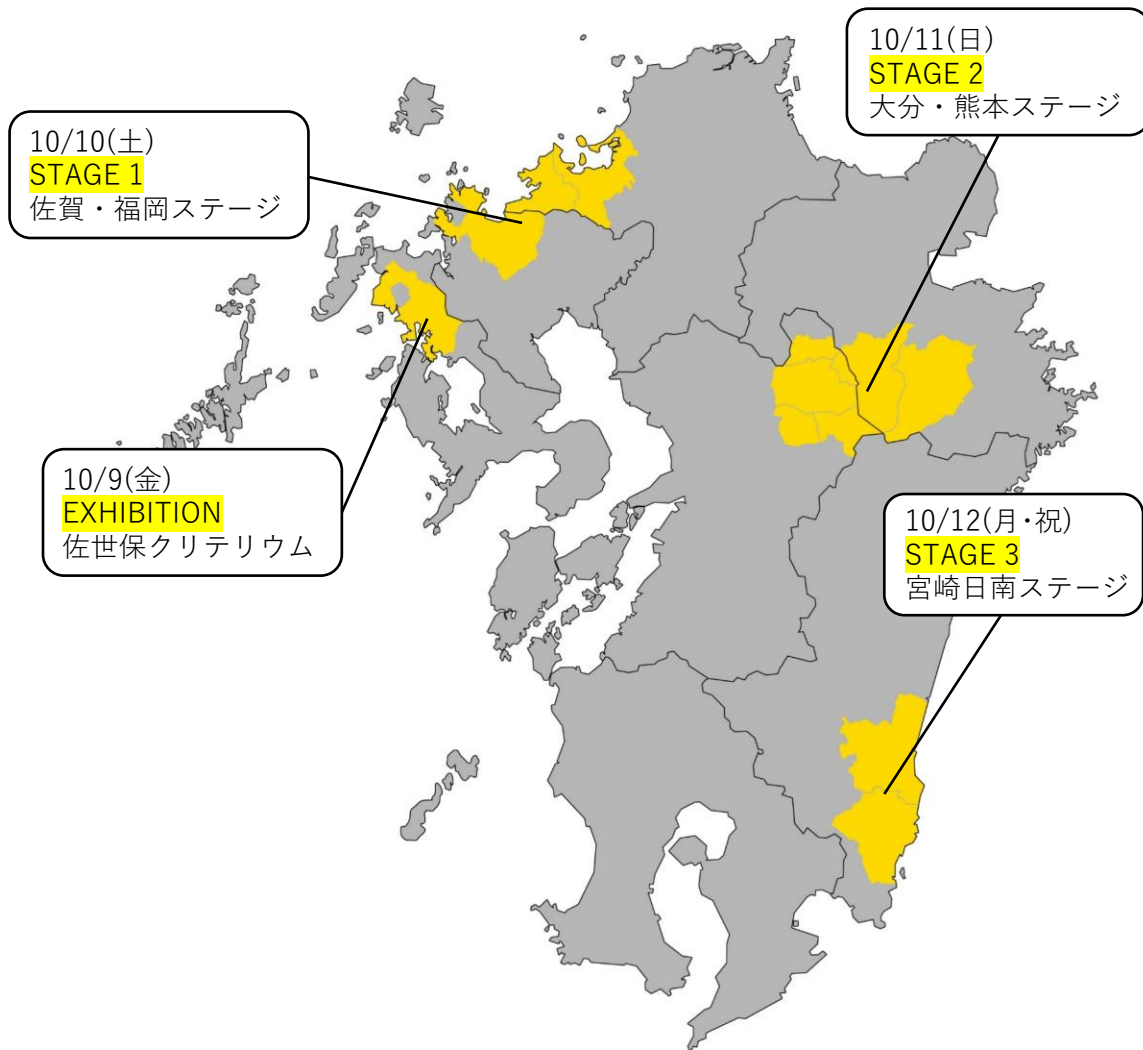


2026年5月28日

報道各位

【2026年10月開催！】
国際サイクルロードレース『マイナビ ツール・ド・九州2026』
コース詳細等を発表

国際自転車競技連合(UCI)認定のサイクルロードレース「マイナビ ツール・ド・九州2026」を10月9日(金)から12日(月・祝)まで、国内外から有力選手108名(予定)を招聘し、長崎県、佐賀県、福岡県、大分県、熊本県、宮崎県で開催します。
 スタート、フィニッシュなどコースの詳細や第1弾出場チーム、リーダージャージのデザインなどが決定しましたのでお知らせします。



【本件に関する問い合わせ先】
 一般社団法人ツール・ド・九州 中川・小山
 電話 092-981-3020
koyama@tourdekyushu.asia

【マイナビ ツール・ド・九州2026 開催概要】

主 催	ツール・ド・九州2026実行委員会、(一社)ツール・ド・九州
競技主管	(公財)日本自転車競技連盟
協 力	佐世保市、唐津市、糸島市、福岡市、豊後大野市、竹田市、南小国町、産山村、阿蘇市、高森町、南阿蘇村、宮崎市、日南市
日 程	2026年10月9日(金)～12日(月・祝)
開 催 県	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県
レース形式	転戦型ステージレース、クリテリウム
カ テ ゴ リ	UCIアジアツアー2.1(ステージレース クラス1)
参 加 者	国内外18チーム108名(予定)
協 賛	ダイヤモンドパートナー (株)マイナビ
	プラチナパートナー 鹿島建設(株)
	ゴールドパートナー (株)ブリヂストン、サントリーフーズ(株)、(株)NIPPO、福岡トランス(株)、九州電力(株)
	シルバーパートナー スタンダード・アンド・アドバンスト・コンサルティング(株)、(株)アイティフォー、全日本空輸(株)、日本航空(株)、(株)NTTドコモ、ソフトバンク(株)、(株)Cygames
	ブロンズパートナー 西日本鉄道(株)、九州旅客鉄道(株)、NTT西日本(株)、(株)肥後銀行、(株)三菱UFJフィナンシャルグループ、旭化成(株)、(株)JTB
	コンサルティングパートナー 九州日仏学館、K-robot(株)T&Y MATSUMOTO Corp.、(株)日本政策投資銀行
	アイアンパートナー 東京海上日動火災保険(株)、(株)麻生、(株)ひよ子、(株)クラフティア、(株)ふくおかフィナンシャルグループ、第一生命保険(株)、(株)西日本シティ銀行、(株)ゼンリン、西部ガスホールディングス(株)、TOTO(株)、三菱商事(株)、野村證券(株)、(株)オージーケーカブト、西日本旅客鉄道(株)、立命館アジア太平洋大学、(株)大分銀行、(株)プロパティマネジメント研究所、(株)佐賀新聞社、(株)ミゾタ
	サポーター 三井不動産(株)、(株)NTNセールスジャパン、石井食品(株)、昭和自動車(株)、(株)戸上電機製作所、トヨタ自動車九州(株)、(株)テノ、ホールディングス、(株)福山コンサルタント、福岡地所(株)、金剛(株)、(株)パールイズミ、(株)北九州銀行 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院、(株)オートポリス、(株)ふくや、宮崎トヨタ自動車(株)、出光興産(株)九州支店、(株)電通九州、(株)山口油屋福太郎

1. コース

10月9日(金)の佐世保クリテリウムを皮切りに、10日(土)の佐賀・福岡ステージは、唐津市の波戸岬から福岡市の天神へ、11日(日)の大分・熊本ステージは豊後大野市役所から南阿蘇村役場へ、12日(月・祝)の宮崎日南ステージはひなた宮崎県総合運動公園をスタートして日南市を回り宮崎県庁へ向かう、4日間で計400km以上を走るコースとなります。

各コースの見どころやレース展開を左右する、スタート/フィニッシュ地点や、スプリント/山岳ポイント地点を決定しました。詳細は大会公式HPの「ステージ紹介」ページにてご確認ください。

●総合時間賞:ステージ初日からの累積タイムが最も少ない選手が表彰される。全3ステージを通して最少タイムの選手が総合優勝に輝く。

●ポイント賞:コース途中の平坦な直線に設定する中間ゴールとフィニッシュラインの着順でポイントが与えられる。ステージレースの合計得点を競う。

●山岳賞(KOM:King of the Mountains):峠の頂点など、坂を上り切った地点の着順でポイントが与えられる。ステージレースの合計得点を競う。

Exhibition

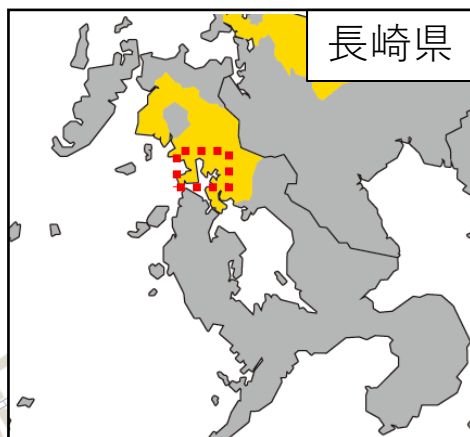
佐世保クリテリウム

佐世保駅や商業施設「させぼ五番街」周辺を周回するコース。

1周約1.5kmのコースを30周して順位を競う。



させぼ五番街プロムナード



長崎県



させぼ五番街



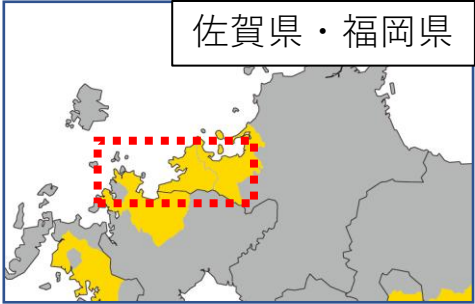
佐世保港に係留する多用途支援艦あまくさ

Stage 1

佐賀・福岡ステージ

唐津市→糸島市→福岡市

唐津市の波戸岬をスタートしてルート・グランブルーを走り、玄界灘の海岸線を望みながら糸島市を経て、福岡市の中心部・天神でフィニッシュするラインレース。



佐賀県・福岡県



世界海洋プラスチックプランニングセンター（波戸岬）



二見ヶ浦



パラセーリング（唐津市）



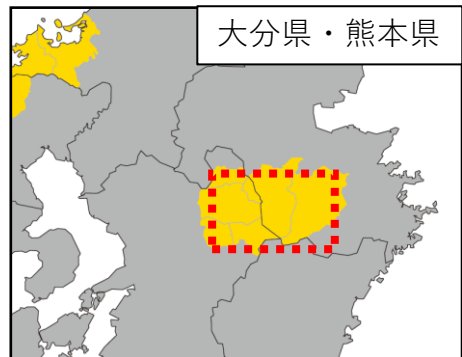
福岡市

Stage 2

大分・熊本ステージ

豊後大野市→竹田市→南小国町→産山村→阿蘇市→高森町→南阿蘇村

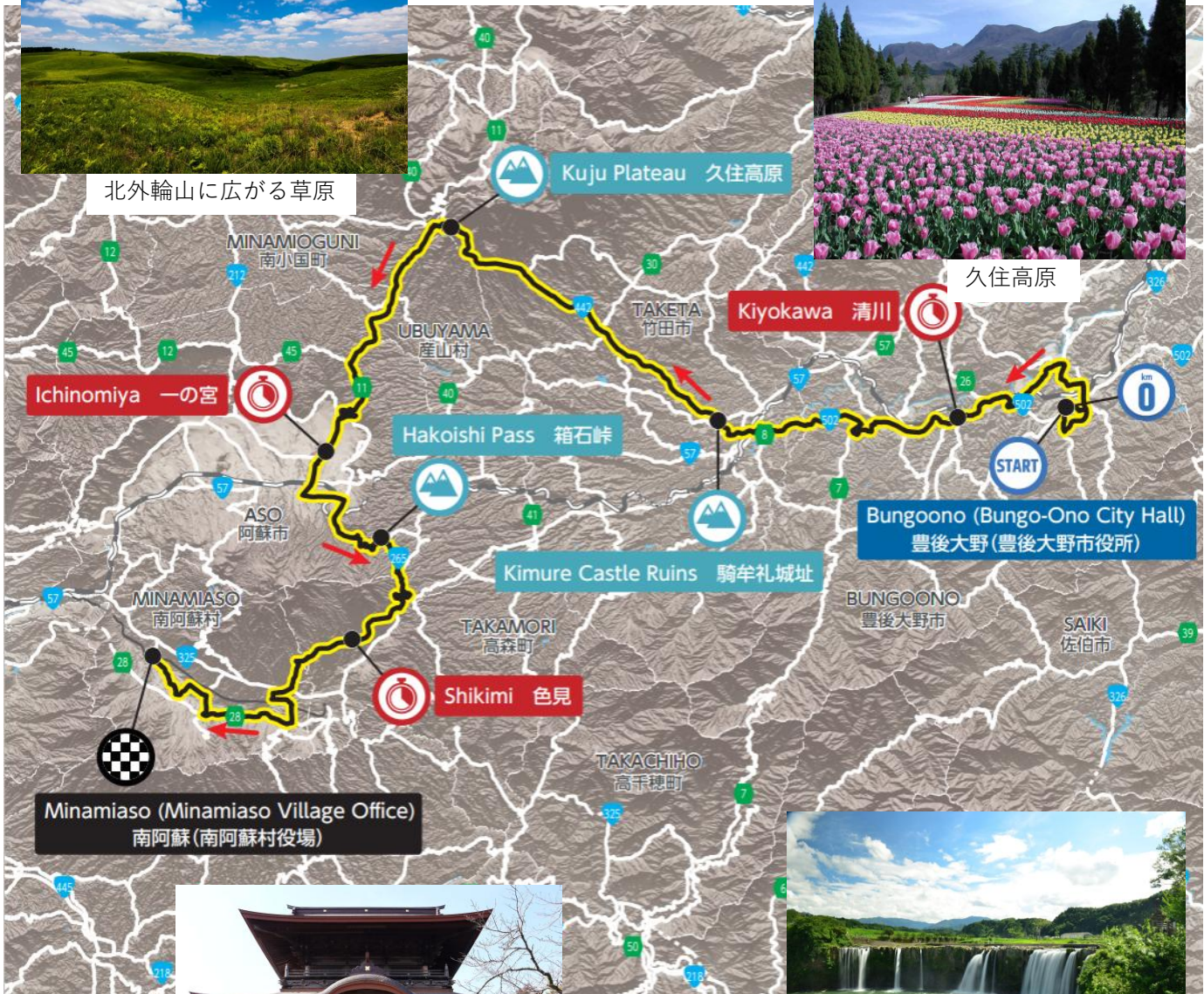
豊後大野市役所前をスタートし、原尻の滝や久住高原などの観光名所を通過。その後、やまなみハイウェイを南下し、阿蘇外輪山の稜線や草原が織りなす壮大な景観の中を走り抜け、南阿蘇村役場でフィニッシュするラインレース。



北外輪山に広がる草原



久住高原



復旧した阿蘇神社



原尻の滝

Stage 3

宮崎日南ステージ

宮崎市→日南市→宮崎市

ひなた宮崎県総合運動公園から日南海岸を南下。日南市内の飫肥を周回した後、宮崎県庁前でフィニッシュする南国宮崎を象徴する魅力溢れるラインレース。

Miyazaki (Miyazaki Prefectural Government Office) 宮崎 (宮崎県庁)

Miyazaki (Hinata Miyazaki Prefectural Comprehensive Sports Park) 宮崎 (ひなた宮崎県総合運動公園)

START

Uchiumi 内海

Hoshikura 星倉

Otono Pass 大戸野越

Kuroshio Road 黒潮ロード

Kusubaru 楠原

Niinan City 日南市

Obl Castle Town 飫肥城下町

Miyazaki Prefecture 宮崎県

Miyazaki Prefectural Government Office 宮崎県庁

Miyazaki Prefectural Comprehensive Sports Park 宮崎県総合運動公園

Uchiumi 内海

Hoshikura 星倉

Otono Pass 大戸野越

Kuroshio Road 黒潮ロード

Kusubaru 楠原

Niinan City 日南市

Obl Castle Town 飫肥城下町

堀切峠

日南海岸

飫肥の街並み

2. リーダージャージと大会トロフィー

各ステージにわたり総合成績を争うステージレースにおいて、各賞のリーダージャージに誰が袖を通すかは大きな見どころの一つ。マイナビ ツール・ド・九州2026でも、スポンサーにご協力いただき、4種類のリーダージャージを着用します。「九州は一つ」を象徴したマークを取り入れ、色鮮やかなジャージがレースを彩ります。また、トロフィーは、めっき企業の株式会社九州電化がプロデュースし、THE鉄人こと井上雅晴氏(福岡県久留米市)が彫金、株式会社九鏡が鏡部分を加工するなど、3社共同で製造され、寄贈いただきました。トロフィーには歴代大会の受賞者名が刻まれています。

【個人総合時間賞】 株式会社マイナビ
「マイナビ ツール・ド・九州2026」で最も称賛される賞。各ステージの個人タイムの合計が最も早い選手に与えられる。最終日の宮崎日南ステージ表彰台でこのジャージを着用した選手が総合優勝者となります。



【ポイント賞】 株式会社ブリヂストン
各ステージのゴール順とスプリント地点の通過順位に応じて加算されるポイントが1位の選手に与えられます。



【山岳賞】 サントリーフーズ株式会社
各ステージのKOM(山岳ポイント)の通過順位に応じて加算されるポイントが1位の選手に与えられます。「山の恵みの水」をイメージした特徴的なデザイン。



【新人賞】 株式会社NIPPO
開催年(2026年)に23歳未満の選手の中で、各ステージの個人タイムの合計が最も早い選手に与えられます。



3. 区間賞

ステージ1・2・3の各優勝者、日本人トップ選手には、大会オリジナルのメダルを贈呈。トロフィー同様にTHE 鉄人こと井上雅晴氏(福岡県久留米市)の製造です。



【ステージ優勝】
鹿島建設株式会社



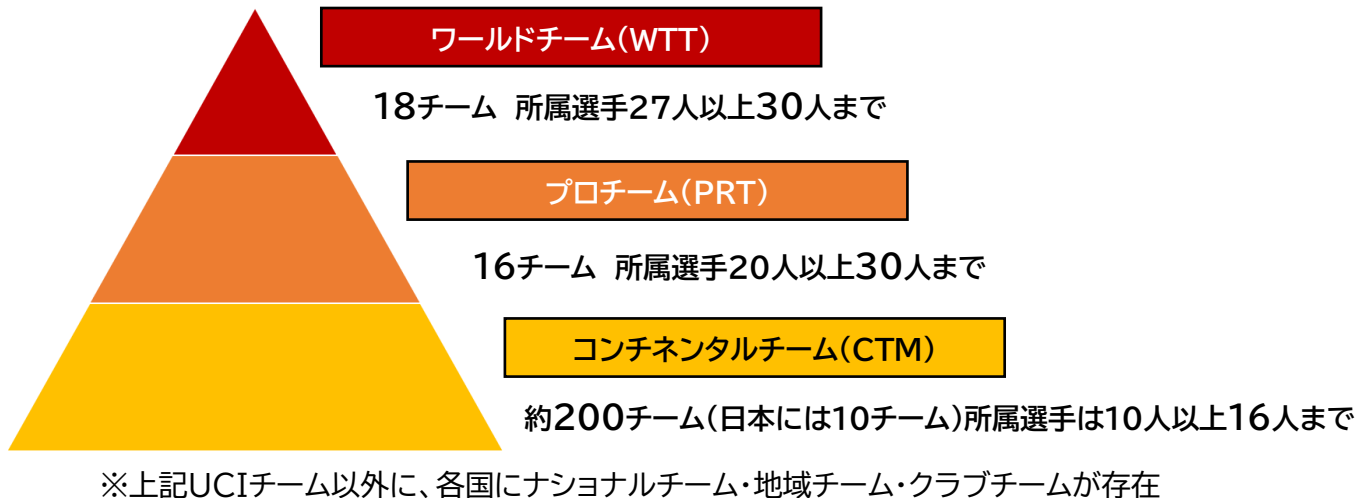
【ベストジャパニーズ賞】
福岡トランス株式会社



4. 出場チーム第1弾

本日まで、マイナビ ツール・ド・九州2026に出場が決定したチームを発表します。
 なお、大会には、18チームのエントリーを予定しています。
 ※今後は決定次第、順次発表します

【参考】UCI公認チームについて



UCIワールドチーム

■XDS ASTANA TEAM/XDS・アスタナ チーム (XAT - KAZ)

戦略変更で一気に世界のトップチームに返り咲いたアジアの雄

カザフスタン籍のUCIワールドチーム。過去にディビジョン降格の危機にあり、選手補強とレース戦略の方針を転換。チームぐるみでより多くのポイントを獲得する路線に転じたところ、勝利数も増加した。2026年5月12日現在の世界ランキングは5位と、かつて降格線上にいたチームとは思えない強豪へと様変わり。チームのエースは今季ツアー・オブ・オマーンで総合優勝したクリスチャン・スカローニ。ジロ・デ・イタリアでは第2ステージを制したギリエルモ・シルバがウルグアイ人として初のマリアローザを獲得し、大きな話題をさらった。ツール・ド・九州では2023年の第一回大会においてアンドレイ・ツァイツが総合優勝を遂げている。他にも現アジアチャンピオンのエフゲニー・フェドロフや、マイナビツール・ド・九州2025の最終日を制したヘノック・ムルブラン、オールラウンダーのハロルド・テハダ、ジロでステージ優勝経験もあるヒルクライマーのロレンツォ・フォルトゥナートら、あらゆる地形で勝負できる布陣を敷く。



UCIプロチーム

■TOTALENERGIES/トタルエナジーズ (TEN - FRA)

実力者が揃うフランスの名門プロチーム

セカンドディビジョンのUCIプロチームながら、フランスを代表する歴史あるチーム。ワールドチームだった過去には日本の新城幸也も在籍し、ツール・ド・フランスに出場した。プロチームとなった現在もツール・ド・フランスは常連で毎年出場。アグレッシブな走りですフランスを沸かせている。マイナビツール・ド・九州2024ではステージ2勝を記録したスプリンターのエミリアン・ジャンニエールが総合優勝を飾った。連覇を狙った昨年大会では序盤でチャンスを失い、出場したワールド/プロチーム中唯一勝利なしとなった。今年はそのリベンジを期して九州入りする。ここまで2年連続出場中のジョルダン・ジェガットは昨年のツール・ド・フランスで総合10位とブレイク。この間にフランス期待のクライマーとして台頭した。ツールでステージ優勝経験のあるアントニー・チュルジス、起伏あるコースを得意とするアレクサンドル・ドゥレットル、フランス屈指の逃げ屋であるマッテオ・ヴェルシェらアタック合戦が続くタフレースで真価を発揮する選手が揃う。



■SOLUTION TECH NIPPO RALI/ソリューションテック・NIPPO・ラーリ (TFT - ITA)

日本の第一人者を擁するディフェンディングチャンピオンチーム

マイナビツール・ド・九州2025で総合優勝を飾ったイタリア籍のUCIプロチーム。日本のNIPPOがスポンサーを務め、国内レースへの参戦機会も多い。プロ18年目、41歳（マイナビツール・ド・九州2026開催時は42歳）の大ベテランにして日本の第一人者、新城幸也が在籍し、その豊富な経験をチームに伝えている。チームのエースはスプリンターのデュシャン・ラヨビッチ。アジアツアーでは敵無しの強さを見せており、昨季は13勝。今季は5月14日現在、すでに11勝を挙げている。また、この4月から43歳のベテランクライマー、ドメニコ・ポッツォヴィーヴォが電撃加入をして話題をさらった。丘陵系のレースでは今季新加入のカミエル・ボヌーに注目。今季ツアー・オブ・ターキーで総合3位に入っている。昨季途中からチームに加入した元ワールドチーム出身のマッテオ・ファッブロも今季調子を取り戻しつつある。そして昨年のツール・ド・九州を制したキリロ・ツアレニコは個人的な理由からレースを離れているが、復帰準備中とチーム首脳陣は話している。今年の九州に間に合えば、再び総合優勝候補となる。



UCIコンチネンタルチーム（国内地元チーム）

■VC FUKUOKA/VC 福岡(VCF-JPN)

九州地元密着チームの先駆け

2010年に福岡で設立されたクラブチームで2023年よりコンチネンタルチームとして活動。育成チームやユースクラブなど裾野の広がりだけでなく、障がいを持つ選手の活躍を支援するなど、九州地域の自転車シーン発展に貢献してきた。チームのエースは42歳のベテラン、ベンジャミ・プラデス（スペイン）。マイナビ ツール・ド・九州2023で総合4位に入った実力者は、本チーム加入後もコンスタントに成績を出しており、今季はトルコのワンデイレースで2位を含む上位入賞を繰り返しUCIポイントを積み重ねている。頼れるベテランの傍らで急成長中なのはジャラルド・レデスマ。マイナビ ツール・ド・九州2025でヤングライダー賞を獲得した23歳も、トルコのレースで上位に食い込んでいる。今季から加入した元全日本チャンピオンの山本大喜は攻撃的な走りがトレードマーク。チームの地元レースとなるツール・ド・九州でもその果敢な走りが期待される。他にも2019年の全日本選手権3位の実績を持つ横塚浩平や、レース経験豊富なベテラン向川尚樹がチームを支える。本多晴飛、阿部源、住田悠人、木村純気ら才能ある若手選手たちの走りにも注目。



■SPARKLE OITA RACING TEAM/スパークルおおいたレーシングチーム(SPA-JPN)

スプリントに自信を見せる九州チーム

2021年に大分で発足した地域密着型チーム。2023年からUCIコンチネンタルチームとして、九州から世界への挑戦を開始。トラックレースでも活躍するスプリンタータイプが中心のチーム構成だったが、近年はオールラウンダーを登用し幅広いレースに対応できるようチーム力を拡充している。総合エースを担うのはレース運びの巧みさが際立つ阿曾圭佑。絞り込まれた少人数でのスプリントが勝ちパターンだ。ベテランの住吉宏太や竹村拓のサポートがその鍵を握る。スピードマン揃いのチームにとって、クリテリウムやスプリントステージは活躍の舞台。マイナビ ツール・ド・九州ではまず佐世保クリテリウムが大きな目標になるだろう。チームの発起人でもある黒枝士揮と咲哉のスプリンター兄弟が地元九州のレースで世界の強豪に挑むシーンを目に焼き付けたい。士揮は今季国内クリテリウムで上位多数、ツール・ド・台湾ではステージTOP10に入る活躍を見せている。例年九州のレースではスペシャルジャージで登場し、会場を沸かせており、今年も要注目だ。



5. 大会公式ドリンク サントリー天然水

本大会のコース地でもある阿蘇の雄大な山々で、20年以上の歳月をかけて磨き抜かれたナチュラルミネラルウォーター「サントリー天然水」が地産地消、水資源の保護のシンボルとして、大会公式ドリンクに決定しました。



6. パートナー企業との取り組み

【株式会社マイナビ】

株式会社マイナビと連携して展開するマイナビ ツール・ド・九州 Locus (ローカス)プログラムでは、“持続可能な九州・〇〇県のために、自分たちは何ができるか？”をテーマに、開催県の高校生が地元企業と連携し、フィールドスタディなど改題解決に向けた探求学習を行います。

高校生が地域の「今」を学ぶことは、「課題解決力」を伸ばすだけではなく、地域への誇りや関心を高めることで、Uターンの増加や地域創生にもつながっていきます。

また各県代表チームは各県知事に対し、成果として具体的な取り組みの提言も行います。



【株式会社ブリヂストン】



マイナビ ツール・ド・九州2026の開催地域で、小中学生を対象とした交通安全授業、自転車競技のパリンピアン杉浦選手による講演会を開催し、大会の機運醸成に加えて自転車の交通安全啓発や共生社会に対する意識醸成に取り組みます。また、昨年同様に福岡ステージフィニッシュ地点でブリヂストン吹奏楽団久留米による演奏応援を計画、さらにパレードにも参加いただき大会を盛り上げます。

7. マイナビ ツール・ド・九州2026の盛り上げ

マイナビ ツール・ド・九州2026では、観客と一体となってレースを盛り上げ、かつ交通規制の事前周知＝安全対策の強化につなげようと、新たな取り組みを検討しています。

コース内でのラッピングを施した車両の走行や、フィニッシュ地点を中心にツール・ド・九州ならではのグッズの配布を予定しています。



マイナビ ツール・ド・九州 2025 の沿線の様子

W.マイナビ ツール・ド・九州 2026 TOUR de KYUSHU 杯

マイナビ ツール・ド・九州 2026 記者説明会

～大会関係者が語るマイナビ ツール・ド・九州 2026 の魅力～

マイナビ ツール・ド・九州 2026 では、2026年5月28日にコース詳細や第1弾チームなどの情報を発表しました。

今年は、ルートグランブルー・日南海岸といった海岸沿い、阿蘇・久住の雄大な山並み、そして福岡市天神・宮崎県庁前という都市部を走り抜ける、まさに九州の魅力を凝縮したコースとなっています。

そして、出場予定チームも第1回大会から出場するXDS・アスタナ チーム（UCIワールドチーム）をはじめとする海外トップチームの参戦が予定されています。

今から10月を待ちきれない、そんなマイナビ ツール・ド・九州 2026 の魅力を、大会関係者が熱く語ります。

- と き** 2026年6月10日(水)15:30～16:30頃
ところ 毎日ホール（東京都千代田区一ツ橋1-1-1 B1）
※zoom配信も予定しています（下記の連絡先にご連絡ください）
内 容 ①マイナビ ツール・ド・九州 2026 の概要
（コース詳細、参加チーム等の説明）
②トークセッション「2026年大会への期待」

【登壇予定者】



飯島 誠

ブリヂストンサイクル株式会社ブランド推進（交通安全）担当部長



辻 啓

マイナビ ツール・ド・九州 2026 大会公式カメラマン



山崎 健一

UCI公認選手代理人/株式会社パザパコンサルティング代表



進行：中川 信治

マイナビ ツール・ド・九州 2026 大会ディレクター

【お問い合わせ先】

一般社団法人 ツール・ド・九州 中川・小山
メール koyama@tourdekyushu.asia 電話 092-981-3020